

令和4年度 第25回「林中地区 まちづくり会議」概要

日 時：令和4年9月17日（土） 10：00～11：00

場 所：林中公民館

参加団体等：林中地区協議会、林中まちづくり委員会、林中壮年会、林中すみれ会、松南スポーツ少年団、防犯協会、松南小学校 PTA、民生委員・児童委員、林中こども園保護者会、林中こども園理事長、林中地区自主防災会、公民館長、白山市町会連合会理事など

発言【1】

公民館やコミュニティセンターのデジタル化は様々なところでよい影響を与えていると思うのでこういった事業に関して継続的な補助をしてほしい

【市】

公民館での学習の深化を図るため、Wi-Fi 環境を整えました。災害時等幅広い用途にも対応できるよう今後も整備を進めていきます。

発言【2】

PTAとの連携について、要望に対し1年に1往復の簡単なやり取りで4～5年かかってしまい遅々として整備が進まない。

例えば市の担当部署であれば、ここには信号機はつかないが、代案がだせる専門の職員が揃っていると思う。職員と顔を突き合わせて話をする機会を、年に一度なり、企画することはできないか

【市】

平成27年2月に策定した白山市通学路安全プログラムに沿って、毎年、5月頃に全小中学校より通学路の安全対策要望書をいただいております、その要望を基に国、県、市の道路管理者をはじめ、白山警察署や市 PTA 連合会、校長会などで構成する通学路安全推進会議を夏頃に行っています。

会議では、実際に現地確認をする合同点検を行い、要望に対する対策を検討し、道路管理者において道路や表示、看板等の補修等を実施し、通学路の安全維持に努めています。

この合同点検は各学校ごとに行っており、その際、教職員並びに PTA 役員、見守り隊の方々等にお立会いいただき、要望内容を1か所ずつ説明いただきながら確認し実施しております。

現状、年間200か所以上の要望が出されており、要望への回答に対し早急な回答ができずご迷惑をおかけしておりますが、今後は早急な回答、対応ができる体制づくりを検討してまいりたいと思います。

発言【3】

公民館という名前をなぜ英語のコミュニティセンターに変えなくてはいけないのか。コミュニティは和訳すると、公民館という和訳がある。わざわざ変更する意図はなんなのか

【市】

これまで以上に幅広い年代が交流できる場として公民館を活用していくとなると、若い世代にも親しみやすい名称が必要になります。コミュニティセンターとなることを機に地域の様々な課題に住民全体で取り組むことができるようにしてほしいと思っています。

発言【4】

新しい公民館の建設をお願いしたい

【市】

中期計画では、まずは昭和56年の耐震基準が定まってない時期までに建てられた未耐震の公民館について、整備をしていく予定になっています。

それ以降に建設された公民館については、改修・改築を順次検討してまいります。

発言【5】

- (1) 林中地区は用水が多いため、内水氾濫が頻繁に発生している。自主防災会では、各町内でこのような問題が起きる箇所を連携、調査して対応をしていかなければいけないと考えている
- (2) 8月4日の災害については、市の方からの情報の提供は結構早く、ネットやラインでも、随時情報が入ってきたおかげで状況の把握ができた。今後もよろしくをお願いしたい

【市】

- (1) 大雨が予想される際は、七ヶ用水土地改良区が幹線水路の取水口である水門を締めております。

その他の支線につきましては、地元生産組合で水門等の管理を行っていることから、内水被害軽減のための対応につきましては、林中地区自主防災会と地元生産組合（管理者）と調整を行っていただくことが必要となります。

- (2) ご意見ありがとうございます。今後とも迅速な情報提供により、市民の皆様が状況把握できるよう努めてまいりたいと思います。

発言【6】

コミュニティバスの停留所について、町内を少し外れたルートであり上下線の停留所がどちらも吹き曝しの状態である。なんとか対応してほしい

【市】

バス停の上屋につきましては、利用者にやさしいバス待ち環境の向上を図るためには重要であります。

しかし、市コミュニティバス「めぐーる」のバス停のほとんどが道路の敷地内に設置しており、上屋等設置には道路関係法令や道路構造基準等の要件をクリアする課題が多く、また、バス停数が市内341基あり、すべて設置するには多大な費用が必要となることから、現状は難しいと考えております。

このことから、市は「めぐーる」のバス停に上屋等の整備に係る補助制度を設けておらず、現状では地元負担で設置をお願いしているところであります。「めぐーる」をご利用される皆様には、大変ご不便をおかけすることとなりますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

また、「めぐーる」につきましては、路線バスが運行していない交通空白地域を補完する形で運行しております。

そのため南西ルートは、剣崎町内を運行する路線バス「川北線」の持続的な維持を図るため競合しないよう、現行のルートとなっております。

広い市域を多くの住民が利用できるよう効率的な運行を図るため、現在の位置にバス停を設置しておりますのでご理解ください。

発言【7】

松任地域の全体的な道路の計画を見ると、南北方向については主要な道路がいくつもある。

問題なのは、道の駅やビジターセンターなどの観光要素として使うための東西方向の道路がないという状況ではないか

【市】

道路については、市道だけで整備を進めていくことは難しく、基本的に主要道としての国道・県道を中心にどのように連携して整備を進めていくのかを考えていくことが必要になります。

近年、観光施設が整備されてきて、工業団地の全容も明らかになってきましたので、それらを総合的に判断して、道路整備を検討していきたいと思います。